

2019年度「漢方医学教育研究助成」 採択決定者一覧

一般研究助成：6件/12件			
No.	研究題目	施設名・所属（役職）	申請者（代表）
1	「専門医の経験知に基づくVR漢方医学的診察教材の開発と検証」	富山大学大学院 医学薬学研究部成人看護学Ⅰ 准教授	山田 理絵
	漢方医学的診察は専門医の経験知に依拠する。専門医は経験知に基づき的確な診察を行うが、経験知の浅い者は有害事象や服薬アドヒアランスの低下をもたらす。本研究は、専門医の経験知に基づく診察方法を可視化し、VR漢方医学的診察教材の開発と検証を行うことで、医学生の診察能力の向上を目的とする。初年度は診察方法の可視化にあたり、模擬患者診察時の①専門医の視線計測、②診察場面の観察、③診察後に面接を行う。次年度は可視化した診察方法を基にVR教材を開発する。また、医学生を介入群と対照群の2群に割り付け、介入群は開発したVR教材を視聴、対照群は従来の漢方診療の映像教材を視聴し、介入前後で専門医2名が医学生の診察能力を検討する。		
2	「症候別アルゴリズムを用いた漢方医学教育ツールの開発」	筑波大学 医学医療系 教授	前野 哲博
	日常よく遭遇する症候・病態について、コンピュータやスマートフォンの画面に表示された質問に沿って情報を入力することで、短時間でファーストチョイスの方剤を表示する教育ツールを開発する。忙しい臨床の中ですばやく適切な漢方方剤の選択が可能となることで、初学者が診療に漢方を取り入れるハードルを下げることができる。また、各画面には解説欄を設け、治療目標、構成生薬、セカンドチョイスなどの情報を表示するので、ベッドサイドで繰り返し使うたびに、実際の診療と結びつけながら体系的な知識を修得できる。開発した教育ツールは、インターネット上で広く公開するとともに、使用前後にアンケート調査を行い、その教育効果を検証する。		
3	「女性ヘルスケアを対象とした漢方卒業教育カリキュラム作成」	近畿大学 東洋医学研究所 所長・教授	武田 卓
	女性は一生のなかで月経・妊娠・更年期といった、劇的な内分泌環境の変化をとげ、男性と比較して心身の不調が多く、女性活躍促進のうえでも適切な対応が必要である。産婦人科は古くから女性不定愁訴等に対して、漢方治療を多用してきた診療科といえる。初期研修医制度において産婦人科研修が必修化された。このことは、ホルモン剤と違い漢方薬は臨床各科で容易に処方可能であることから、将来の女性ヘルスケアにおける漢方治療習得の絶好の機会と考えられる。そこで、臨床研修指定病院所属の産婦人科医へのアンケート調査をもとに、漢方卒業教育カリキュラムを作成し、産婦人科研修時の初期研修医を対象に教育を行い、その有効性を評価する。		
4	「東洋医学サークル学生が主体となるアクティブラーニングを用いた漢方医学教育法の開発」	大分大学医学部 医学教育センター 教授	中川 幹子
	本学の医学生の漢方サークル「東洋医学研究会」は指導者のもと、学内外で勉強会を開催し、独自に作成したテキストを用いて学生間の屋根瓦式教育を実践している。本研究では、現在4年次生対象の東洋医学講義（11コマ）の内、2コマの授業を東洋医学研究会の学生に企画担当させ、腹診シミュレーターや鍼灸の実技等のアクティブラーニングの手法を取り入れて実施するカリキュラムを新たに構築する。講義前後で学生アンケートを実施し、試験結果とも対比しながら、学生自身による東洋医学教育の効果について検討する。		
5	「臨床研修医コミュニケーション能力に対する漢方医学研修の効果」	金沢大学附属病院 漢方医学科 特任准教授	小川 恵子
	漢方医学的概念を学ぶことによって現代医学とは異なった視点で患者さんを理解できる。漢方医学的診察では、望診で顔色や動作から、問診で声の大きさや質などから、病態を推察する。問診では傾聴を重視し、切診では診察と同時に非言語的コミュニケーションを図る。以上より、漢方医学臨床実習によってコミュニケーション能力が向上すると経験的に言われているが、検証は十分でない。そこで本研究では、漢方医学研修が初期臨床研修医のコミュニケーション能力に及ぼす影響を検討するために、金沢大学附属病院漢方医学科で臨床実習した初期研修医を対象に、研修前後に、研修医自己評価アンケートと、患者満足度調査を行い、比較検討することを目的とする。		
6	「漢方薬の薬理学的特性を理解するための学生実習の構築」	杏林大学 医学部薬理学教室 教授	櫻井 裕之
	医学生への漢方医学教育に漢方薬の薬理的な特徴を実験させるプログラムは未だ開発されていない。本申請では、医学部や薬学部の薬理学実習で広く行われている横紋筋や平滑筋の収縮を評価する実験系に筋肉弛緩作用が知られている芍薬甘草湯を適用し、その効果を、筋肉の収縮を抑制する西洋薬であるアトロピンなどと比較することにより、漢方薬が現代医学の薬理学により評価できることを実験させる実習システムの構築を目指す。芍薬、甘草、そして芍薬甘草湯、それぞれの効果から、複数成分の足し合わせで薬効を出すという漢方薬の作用メカニズムが理解でき、漢方薬にプラセボを超えた真の薬効があることが実感できるであろう。		

グループ研究助成：1件/4件			
No.	研究題目	施設名・所属（役職）	申請者（代表）
1	「病院間連携による卒業漢方教育へのe-learningの導入」	東海大学医学部 専門診療学系漢方医学 教授	新井 信
	本研究の目的は、神奈川県4大学医学部FDフォーラムで、小規模な臨床研修病院でも実施可能な卒業漢方教育システムを開発し、評価することである。方法は、初期研修で学ぶべき10処方を選定した後、音声ガイドのついた処方解説、臨床症例、確認問題をコンテンツとして、1処方を約10分で受講できるスライドを作成し、漢方e-learningの教材とする。これを学習管理システムを用いてWeb上で限定公開し、神奈川県内で卒業教育に病院間連携を導入している組織の教育プログラムに試験的に組み込む。対象は卒業1、2年目の研修医で、e-learning修了後に総括的な講義、確認用の演習問題、模擬患者の診察実習などを実施する。評価は、学習者へのアンケートと演習結果で行う。		